

大雨・洪水防災について

台風の大きさと強さ

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、風速をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。

「大きさ」は、強風域（風速 15m/ 秒以上）の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

また強風域の内側で、風速 25m/ 秒以上の風が吹いていると予想される範囲を「暴風域」と呼びます。

台風に関する情報では、これらを組み合わせて「大型で強い台風」のように呼びます。

■ 台風の大きさ

| 階級 | 風速 15m/ 秒以上の強風域の半径 |
|--------------|--------------------|
| 大型 (大きい) | 500km 以上～ 800km 未満 |
| 超大型 (非常に大きい) | 800km 以上 |

■ 台風の強さ

| 階級 | 最大風速 |
|-------|--------------------|
| 強い | 33m/ 秒以上～ 44m/ 秒未満 |
| 非常に強い | 44m/ 秒以上～ 54m/ 秒未満 |
| 猛烈な | 54m/ 秒以上 |



大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると左図のようになります。

雨の強さと降り方

やや強い雨

10~20mm
未満

強い雨

20~30mm
未満

激しい雨

30~50mm
未満

非常に激しい雨

50~80mm
未満

猛烈な雨

80mm
以上



地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら注意が必要です。



土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小河川ならはん濫、また、がけ崩れの心配もあります。



がけ崩れが起こりやすくなり危険地帯では避難の準備が必要です。道路規制が行われることがあります。



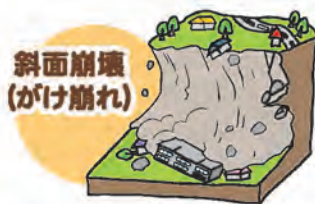
滝のように降り、傘は全く役に立たなくなります。土石流が起こりやすくなり、多くの災害が発生する可能性があります。



息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要です。

大雨・洪水災害について

土砂災害の種類



急ながけ地や山の斜面が突然崩れ落ちる現象を、斜面崩壊（がけ崩れ）といい、国内で最も件数の多い土砂災害です。

一瞬にして崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。このような被害を生じる恐れのある箇所を「急傾斜地崩壊危険箇所」といいます。



土石流とは、谷や斜面の土・石・砂が大雨による水とともに、一気に谷を流れ下る現象です。

スピードが速く破壊力も大きいので、大きな被害をもたらします。このような被害を生じる恐れのある溪流（渓谷や小川）を「土石流危険溪流」といいます。



粘土などの滑りやすい層の上にある斜面部が、しみ込んだ雨水等の影響などでゆっくり動きだす現象です。

一度に広い範囲が動くため、大きな被害をもたらします。このような被害を生じる恐れのある箇所を「地すべり危険箇所」といいます。

知っておこう！ 3のポイント

□住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確認する

自分の家が土砂災害危険箇所にあるかどうか確認しましょう。

※ただし、土砂災害危険箇所でなくても、付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意が必要です。

□雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する

鹿児島県の砂防課などのホームページで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも発表されます。

□土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する

土砂災害警戒情報が発表されたら、早めに近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。

土砂災害警戒区域

(通称:イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域で、警戒避難体制の整備を図ることを目的として指定します。

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、危険の周知や警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害(特別)警戒区域

(通称:レッドゾーン)

イエローゾーンの中でも建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域で、住宅等の新規立地の抑制等を目的として指定します。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)のうち、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制や建築物の構造規制等が行われます。